広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／明光印刷
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

播磨ヒストリア

播磨町の歴史をひも解き、その時代にタイムスリップして、当時の出来事をエピソードを交えながら紹介します。

播磨町郷土資料館 館長補佐　宮柳 靖
☎079（435）5000

▲阿閇城（別府の阿閇の城）跡

エピソード八　阿閇（あえ）城の戦い

今から430年あまり前の天正６（1578）年から天正８（1580）年にかけて三木合戦がありました。この戦は、加古川流域で影響力を持っていた三木城主 別所長治（べっしょながはる）と播磨国全域を織田信長の支配下に入れようとした羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）の戦いでした。別所方の高砂、魚住、野口、神吉、志方の城主は、城に立てこもって戦に備えましたが、阿閇城の城主 加古政顕（かこまさあき）は、兵を連れて三木城へ入り篭城しました。秀吉は、城主のいなくなった阿閇城をとり、海上の兵や食糧輸送などの監視をさせました。

長治は、中国地方で勢力を強めていた毛利輝元（もうりてるもと）と手を組み、秀吉と戦おうとしていました。輝元は、阿閇城を取り返し食糧の輸送路を安全なものにし、書写山にいる秀吉を攻める計画を立てます。海上から攻め入る兵は、紀伊、淡路を含め8,000人を超えるものでした。この知らせを受けた秀吉は、ただちに小寺官兵衛（こでらかんべえ）（のちの黒田官兵衛）を阿閇城へ向かわせました。兵500人を連れた官兵衛は、走りに走って毛利勢より早く阿閇城に入りました。官兵衛のとった策は、兵も食糧も少ない小城のため、相手は簡単に攻め落とせると思い、十分な準備もせずに攻めてくる、その油断を突こうという大胆なものでした。

上陸した毛利勢は、予想通り城攻めの櫓（やぐら）や鉄砲よけの盾を持たず、兵の数に任せて攻めてきました。毛利勢が、城の石垣を乗り越えようとしたそのとき、太鼓がドッドーンと鳴ったかと思うと、鉄砲がいっせいに火をふき、矢がはなたれ、石が投げ落とされました。城壁の下で大混乱となった毛利勢に追い討ちをかけるように、次の太鼓が鳴り響きました。門が開き、侍たちが堰（せき）を切ったように流れ出てきて切りかかり、槍で突きながら立ち向かっていったのです。ひるんだ毛利勢は持ちこたえられず、船へ逃げもどり退散しました。

三木合戦では、重要な役割を果たした阿閇城でしたが、合戦が終わると取り壊されました。「播磨町の民話と郷土史」によると、阿閇城（正式には「別府の阿閇の城」）は、宝蔵寺（ほうぞうじ）東隣（加古川市西脇２丁目）にあったようです。西脇は、旧東西本庄、宮西村などがある阿閇荘（あえのしょう）の村でした。

町の人口 10月１日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,487人（＋72人）　男…16,917人（＋43人）　女…17,570人（＋29人）　世帯数…13,869（＋29）

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association